



# ふくおか

# 市政 だより

●編集・発行 広報課 ☎711-4016 ●配布に関するお問い合わせは 産交ミック ☎0120-544-894 ●市政に関するご意見・要望・相談などは 広聴課 ☎711-4067 ☎733-5580

2008(平成20)年  
**10/15**  
No.1396  
福岡市ホームページ  
http://www.city.fukuoka.lg.jp/  
福岡市

今号の主な内容

## 地域ぐるみの子育て支援

●特集 **1 2 3**

- 新病院基本構想(案) ..... **4 5**
- 「アイランド花どんたく2008」開催 ..... **6**

- アイランドシティに新コンテナターミナル完成 ..... **6**
- 御供所ライトアップウオーク2008 ..... **7**
- 後期高齢者(長寿)医療保険料・国民健康保険料のお知らせ ..... **7**
- 介護保険料のお知らせ ..... **7**
- 情報BOX ..... **9~15**
- 区版 ..... **16**

**人口1,437,214人**  
男 687,917人/女 749,297人  
世帯数/684,392世帯  
(平成20年9月1日現在推計)

**次号の特集予告**  
**農林水産まつりと「食」情報**  
\*この市政だよりは再生紙を使用しています

## 新病院基本構想(案)を とりまとめました(4・5面)

市は「子どもと子育てを大切にすまちなち」を目指して、地域の皆さんとともにさまざまな取り組みを行っています。

市が支援する地域で子どもをほぐくむ活動「地域子ども育成事業」のうち、これまで75校区で立ち上げられている「育みネット」支援

地域子ども育成事業「育みネット」

この事業は自治協議会、青少年育成連合会、子ども会育成連合会、自治連合会など、校区内で子どもの育成活動を支えている関係者が集まり、地域で子どもをほぐくむネットワークづくりを支援するものです。校区内の子どもの様子や子どもをほぐくむ活動について自由に意見交換を行う「子どもについて語る



防災マップづくりで地域の人に話を聞く住吉小学校の子どもたち (平成20年9月)

子どもに関するさまざまな情報は、市のホームページ(www.city.fukuoka.lg.jp/)「トップページ」>「こども・子育て」>「ふくおか子ども情報」で見ることができます。

「子ども育成調査アドバイザー」が地域に向いてネットワークづくりの助けや手伝いなどを行うとともに、講師謝礼金の支給や事業に必要な物品の支給を行っています。

住吉校区(博多区)では、子ども会育成連合会が中心となって、子どもたちの健全育成を目的とした「育みネット住吉」が平成19年9月に組織されました。

これまでの取り組みの中で、小学生の登校時に通学路で安全を見守る「子ども見守り隊」が発足したほか、講師を招いての読み聞かせ会、子ども自身が自らを守る方法を学ぶワークシ

子どもと子育てを大切にすまちなちを目指して

市は毎月1日〜7日を「いくなふくおか子ども週間」と設定するなど、市民の皆さん、地域の関係団体や民間企業など一体となり、次代を担う子どもたちが生き生きと育つ環境づくりを進めています。社会全体ですべての子どもと子育て家庭を支援するための事業や施設、地域や校区の皆さんの取り組みを紹介

## 地域ぐるみの子育て支援



住吉校区子ども見守り隊発足式 (平成19年11月)



地域の人と相談しながら危険箇所を記入 (平成20年9月)

古く町並みが残る校区をあらためて歩き、子どもたちは災害時の避難所や注意すべき災害危険箇所などを確認しただけでなく、自分たちが住む町への愛着もわいたよです。

参加した苑田知夏さん(小6)は「住み慣れた町も歩いてみると新発見があったよ。

核家族化をはじめとした社会構造の変化の中で、異年齢・異世代との触れ合いを持たないまま大人になった世代が今、子育てに奮闘しています。中には孤立してしまい、悩み苦しんでいる母親もいて、時に悲しい事件が起こります。

1960年ごろまでは、年齢の違う子どもたち同士が外で遊び、彼らは小さな子どもと接する中で育児の原点のようなものを体験として学んでいました。しかし今は、その体験がないため、育児書に書かれていることと少し違うというだけで不安になったり、悩んだりしてしまう人が少なくありません。

近所に住む子育て経験のある人生の先輩たちに気軽に

に相談できれば済むこともたくさんあるはず。それには、普段から地域の人々が「困ったことがあったらいつでも話しかけてください」というメッセージを送っていることが大切です。

また子どもたちは「学校教育」や「親子の関係」だけで育つではありません。その間にある「地域」の人が「子どもは地域の宝」として、危ないことをしていたら注意し、良い行いは褒め、元気に遊んでいるれば温かく見守ることが重要です。遊びを通して、子どもはたくましさ、生きた知識、自主性、体力などを身に付けていきます。地域の中で異年齢と遊び、体験として身に付けた豊かな人間関係力は、彼らが大人になったときの子育てにも役立ちます。

地域の人々が積極的に交流し、人間関係が豊かになることも、地域の子育て支援につながります。それは、今問題になっている子どもの安全も、そうした地域であってこそ守られるものだからです。

「子どもは地域の宝」

子どもは地域の宝

た」と笑顔を見せます。育みネット代表の橋本博子さん(49)は「地域の子どもたちと一緒に町歩きすることで交流も深まります。地域で子どもたちを見守ろう」という意識も高まっています。

【問合せ先】  
こども未来課 ☎711-4114 ☎7333-5555  
34 メール mirai.c@city.fukuoka.lg.jp

核家族化をはじめとした社会構造の変化の中で、異年齢・異世代との触れ合いを持たないまま大人になった世代が今、子育てに奮闘しています。中には孤立してしまい、悩み苦しんでいる母親もいて、時に悲しい事件が起こります。

1960年ごろまでは、年齢の違う子どもたち同士が外で遊び、彼らは小さな子どもと接する中で育児の原点のようなものを体験として学んでいました。しかし今は、その体験がないため、育児書に書かれていることと少し違うというだけで不安になったり、悩んだりしてしまう人が少なくありません。

近所に住む子育て経験のある人生の先輩たちに気軽に



横山正幸さん